

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人社団 博文会		
事業所名	グループホーム 永の郷		
所在地	熊本県熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	平成 25年 3月 6日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成24年4月1日より熊本市南区となる。嘉島町と緑川を挟んだ位置にあり、近くにはイオンモール熊本がある。併設の広いグラウンドを擁している。日常的にご利用者の散歩、春には花見と皆様がたに季節感を感じていただくには最高の環境である。また、地区の方々にも開放され、朝はグラウンドゴルフ場として、放課後や休日には子供たちの歓声が聞こえてくる。政令市とはいえ、自然豊かなのどかな環境で、ゆったりと時の流れを感じながら職員とともに生活していただくことがモットーである。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

アピールしたい点にも上げられているように、事業所は併設に広いグラウンドを擁しています。ここを地域の方々に開放しており、法人主催のグラウンドゴルフ大会は年3回行なわれています。また、放課後や休日は子供の遊び場としても利用されています。このような取り組みもあって、事業所は地域から認知され、日常的に野菜等の差し入れや交流があるようです。また、避難訓練の際には区長より有線放送での地域への参加呼びかけが行なわれており、近隣を含めた緊急連絡網も整備されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活をおくる」ための文言が理念の中に謳われており、毎朝復唱することで、理念の共有を図りながら実践につなげている。	利用者一人一人が、地域の中で自立した幸せな日常が送れるよう、本人・家族・事業所が三者の共同理解、共同信頼を理念の中に盛り込み、行動の指針としている。理念は、見やすい居間に掲示し、毎朝復唱する事により、共有し実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の回覧、駐車場、グラウンド等の地区の方々への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の年3回開催、地域運営推進会議メンバー等地域に根ざしている。	事業所は、区の一員として自治会に入会している。また、駐車場やグラウンドも地区の方々に開放しており、特に事業所が主催し、杉上校区グラウンドゴルフ協会が主管する大会は26回目を数える。このような取り組みが功を奏してか、地域の方々との交流も活発で、旬の野菜などの差し入れも頻繁に行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーに区長、民生委員、消防団、老人会長、郵便局長、保育園園長等の方々がいらっしゃるので、皆で共有するような取り組みはしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は6回実施しているが上記のメンバー以外に包括、社協、有識者の方々と常に議題についての検討をしている。	会議は2ヶ月に1回、奇数月に行なわれており、出席者は区長、民生委員、消防団、老人会長、郵便局長、保育園園長、地域包括支援センター職員、有識者など多彩な顔ぶれである。そこでは、事業所の取り組みや利用者の状況報告を行ない、いろいろな意見を伺う機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センター中心の地域ネットワークには常に出席し、協力関係を築いている。	運営推進会議への市担当者の出席はないが、実地指導時や市より介護相談員受け入れの話があった時等は前向きに検討し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「NO虐待・身体拘束」をモットーに職員全員意識している。研修、勉強会などで、日常的に全員が共有できるような取り組みをしている。	「No虐待・身体拘束」の実践に力を入れており、年2回の内部研修と自治体等が開く外部研修にも職員を出席させている。その際、出席した職員は、全員が共有できるように勉強会を行なっている。	

グループホーム 永の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では、県のライブラリーの資料での勉強会や弁護士の講演への参加、ニュースなどを朝礼でも取り上げ常に意識を持つような取り組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中にも直系の家族がいない方もおられるので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にお会いして、こと細かい説明で、できるだけご家族の不安、疑問にお答えしているつもりである。契約時もかなりの時間を要している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会開催の場で、できるだけオープンに意見交換ができるような会雰囲気作りにつとめている。	年6回、偶数月に家族会を開いており、家族と職員の懇親にも力を入れている。その際、気軽に意見や要望が言える雰囲気づくりにも努めている。まら、玄関には第三者苦情処理機関のポスターを掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内勉強会の場では必ず今の職場の現状を皆に一言ずつ発言してもらうようにはしているが、なかなか本音が言えない場合もある。	月に一度は全体勉強会を行っており、その中で一言でも発言してもらう機会を設けている。またそれ以外にも、個別に対応する事も行なっている。これまで職員の提案で、毎月のカレンダーを作成したり、利用者の写真作成を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も週一回のペースで事業所に来て、職員とのコミュニケーションを図り、改善に努めている。また、社会保険労務士も月一の間隔で来て、職場環境・条件についての話し合いがなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には、特に積極的に参加しているし、講演会にも必ず出席するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市になってから、なかなかブロック会には満足といえるほど出席できていないが、次年度からはできるかぎり出席し、情報のアンテナは張るようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前にかかりの時間を要して、話しを聴くように努めている。さらに契約時にもあらためて話しを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現実的には入所されてからの一ヶ月は特に緊張感をもって細かい観察につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をしっかり理解体感してもらっているのので、家族と同様の意識で生活できていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、いつでも気軽にご家族にきていただき、職員がご家族のお尋ねにだれでも回答できるようにしているつもりではある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の供養や墓参りまた年の節目時はできる限りご家族や馴染みの方々と時間を共有していただきたいと思っているが、年々少数になってきている。	現在事業所では、家族や馴染みの方との時間の共有支援に力を注いでいる。2名の方が家族の協力により、墓参りや法事に出席されている。その他にも、大晦日には一時帰宅をされる利用者もおられる。また、隣りに有料老人ホームが併設されていることもあり、そこの行き来も支援している。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回程度皆様で外出したり、日課の中にもリハビリ体操、今月の歌を3曲程度歌ったりして一緒に暮らす連帯感を感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前のご相談にも気軽に応じ、転居先にも惜しまず情報提供を協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今やりたい希望を叶えられるように、迅速に対応している。例えば、買い物、美容院、帰宅等もちろん帰宅時にはご家族と調整をはかっている。	思いや意向の把握には、生活歴の詳細なチェックと、コミュニケーションがとても大事だということである。長年の利用者でも、最近になって初めて適格なケアが出来るようになった例もあるという事であった。また、日々のかかわりの中で、表情には特に注意を払い、思いや意向の把握につなげるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話しは尊重しつつも、本人とのコミュニケーションや行動の中から今の生活をより本人の意向に近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の生活動向の観察に主眼にして、起床時のバイタルチェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから現状把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低月に一回はカンファレンスの時間を持ち、できるだけ多くの職員の視点からの気づきを計画作成担当者に知らせ、職員間でも共有できるようになってきたので、以前よりは向上しているとおもわれる。	最低でも月に1回は日曜日を選んでカンファレンスの時間を持つようにしている。日曜に行なうことで、より多くの職員の視点や意見を取り入れる事ができる。また、そうすることで介護計画にも反映され、職員間でも高水準で共有出来ると考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が真ん中のプラン作りを皆で考えているまた、記録する際、できる限りネガティブな表現や言い回し方考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様には、いかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいるのでかなりの部分既存のサービスにとらわれないケアを実践していると思う。		

グループホーム 永の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	政令指定都市となり、徐々に社会資源が拡大すると思われるため、上手く活用しながら皆様方の豊かな暮らしを楽しんでいただける実践につなげたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切にし、家族、職員連携しての通院支援、協力医の往診を仰ぎながら、迅速に対応している。	本人・家族の意向を大切にし、家族と職員が連携を取りながら、通院支援を行なっている。協力医の往診も月に2回、第2・第4金曜日に行なわれている。また、認知症専門医の受診をされている方も2名おられ、経過は良好との事である。さらに訪問歯科診療についても月に2回、5名の方が受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に診てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係の方とは密に連絡はとっている。職員も頻回に交替で面会し、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、ターミナルケアは難しい。日常での医療行為が必要になられる直前までは、ケアをさせていただくことをご家族には理解していただいている。在宅ではないところにターミナルケアが必要なのかという声もある。	事業所として支援可能な基準を定め、家族と話し合っている。経口摂取が難しくなったり、日常的に医療行為が必要になったりした場合には、家族と相談の上、医療機関に搬送するようにしている。また、看取りについては、今のところその予定はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の応急処置は皆学習できている。しかし、急変時は代表者、管理者が連絡を受け、救急搬送している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議等で災害時の緊急連絡網の作成はしてある。地域の方々に声を掛けるための避難訓練を実施計画あり。	避難訓練は年に2回実施している。1回は自主訓練で、もう1回は消防署指導のもと行なっている。区長、民生委員、消防団員をはじめ、近隣の方々の緊急連絡網も作成している。また最近の訓練では、区長より有線放送での呼びかけがあり、地域の方が4名参加させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とは、個々のことを知りたいと思うことから始まるのではないかと考えている。	接遇マニュアルも備えており、年に1回勉強会を行なっている。また外部研修会にも参加し、実践出来る様取り組んでいる。個人情報については、同意書を作成しており、契約時に取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にすること、共同生活を楽しむことは相反する場面もあるが、業務優先にならないように、いつも葛藤しながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪きり化粧、外出時の身だしなみ等いろいろな場面でしえんしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様のできる範囲の準備、片付けを一緒にしている。また、個々に応じた、食事形態を提供している。	食事の準備に参加出来る利用者もだんだんと少なくなって来ているとの事であるが、その中でも野菜の皮むきやヨーグルトのつぎ分け、下膳など出来るだけ力を発揮してもらうようにしている。また、お粥やトロみつけ、きざみ食、またミキサー食など個々の状態に応じて支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の準備は、ご利用者も個々の状態に応じた食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので、力を注いでいる。		



グループホーム 永の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ個々の排泄パターンが把握できているので、実践できているほうだと思う。	排泄管理表を作成しており、利用者個々のパターンを把握し、支援している。また、立ち上がって歩きだす、落ち着きがなくなる等の特徴にも気を配り、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンはほぼつかめているので、個々に応じた取り組みができていると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3～4回で入浴していただいている。曜日や時間は基本的には決めていない。	利用者のその日の体調にもよるが、2日に1回の割合で入浴支援を行なっている。時間は、午後3時を目途としている。日本の文化的行事である、ゆず湯やしょうぶ湯は大変喜ばれている。入浴剤の使用については、皮膚の弱い方もおられるので使用しない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時刻を設定していないので、その方ひとりひとりのサイクルに合うようにしている。皆様方よく眠られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者の命に直結する問題なので職員ひとりひとり自覚している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活にリズムをつける意味で「体操」「今月の歌」「脳とれ」を皆様と決めている。また、併設のグラウンドでは、日常的な散歩、季節の花見、柿、梅の収穫、菜園での野菜栽培などを楽しみの一つにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や買い物はご家族の協力もありできている。また、季節感を味わえるように、最低月一程度はドライブ、外出をしている。	事業所は専用グラウンドを所有しており、利用者の日常的な外出支援に利用している。また年間を通じて、動植物園見学やあじさい・コスモス・紅葉等、季節折々の外出支援にも力を入れている。	



グループホーム 永の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができればの方が極めて少数なので買い物希望あられるかたは、買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方がご入所され、また手紙は職員とともに書かれるかたがいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間の経過と共に今にふさわしくない空間もあるが、創意工夫、職員の知恵で住みよい環境作りをしたい。	利用者が集われる居間は、南側に大きな窓が設計されており、明るさと暖かさを兼ね備え、とても穏やかな雰囲気の空間となりました。また壁面には、書道等の作品が掲示されており、不快な臭い等は一切ありませんでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさや配置など四六時中職員で思案している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意思を尊重して、配置していただいているが、レイアウトでご本人にリスクが考えられる時には職員がアドバイスする場合がある。	空調以外にベッドも備え付けられているが、持ち込みの希望があれば、本人や家族の希望に沿うようにしている。収納や調度品、また壁面を利用しての家族写真など、居心地よく過ごす工夫を行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一昨年にスプリンクラーおよび火災通報装置設置済ませ、より安心していただける空間にできている。		